

会報

な か さ と

E-mail nakasatokouryusenta@net1.jway.ne.jp

中里学区コミュニティ推進会

発行責任者 石川 諒一

編集事務局 皆川 汪

T E L 0294-70-8005

中里学区人口 R6.11.1現在

世帯数 410

総人口 909

男 427 女 482



秋晴れの11月9日(土) 今年より、合同体育祭・ふれあい祭り・文化祭を一同に統合し、オータムフェスティバルを開催しました。冒頭の石川諒一コミュニティ推進会会長の挨拶に、学区内は高齢化による人口減少など参加人数の確保など問題があり、各日に行ってきた行事を今回統合して行う事で参加しやすくし継続を図っていききたいとの説明がありました。

午前の部はスポーツ大会、午後はふれあい祭りと趣向を凝らし全ての競技に参加者も集まり盛り上がったフェスティバルでした。

第一回 オータムフェスティバル 開催される



午後のふれあい祭りでは芸能発表が行われ、きらら琴の会・新しくハンドベル演奏があり、また新たにキレキレのキッズダンスが披露され、拍手喝采を浴びていました。

カラオケ・詩吟の熱唱の後は、新しいロングドレスでのナウパカの披露は艶やかな踊りでした。最終は中里小中学校吹奏楽部の演奏で締めくくった。

昼食はカレーライスが無料提供され、「美味しかった」と好評でした。

例年通り野菜・焼き芋の直売コーナーもあり、売れ行き好調とのこと。

お茶席では饅頭を頂きお抹茶を嗜みいい時間を過ごさせていただいた。

ゲームコーナーのスナッグゴルフは若い人から高齢者が参加し、面白い、はまりそう、と好評。

帰りは、競技参加賞・抽選景品を両手に抱え、競技に熱中した子供達、孫達の思い出も抱え、笑顔で帰る姿が印象的でした。コロナ禍で4年ぶりふれあい祭り好評に終了した。

訂正とお詫び

前号(226号)にて氏名紹介の間違えがありました。パンポン大会の記事で、下深荻町 大部勝美さんと紹介しましたが、正式には「大部 克美さん」です。申し訳ありません。

訂正とお詫びを申し上げます。 中里コミュニティ推進会 広報部



キレキレダンスに拍手喝さい。楽しそー



揃いの衣装でダンスです



令和6年度体育祭開会式の様子



みんな真剣な表情です



中里小中学校伝統の八木節を踊る児童達

生徒増に伴い今年も開校以来初の単独開催です

今年の体育祭は例年と違い生徒数が増加し80人近い人員となり中里小中学校開校以来初の単独開催となりました。前日の天気予報では雨時々曇り予報でしたが当日9月28日土曜日の朝は曇りで競技開始時には見計らったかのように綺麗に晴れて運動会日和の最高の環境をお天道様がプレゼントしてくれました。

スローガンの下に躍動する子供達

今回の体育祭のスローガンは「やる気100% いけ！なかさとっ子魂」という熱い気持ちににじみでておりそのスローガンの通りに様々な競技にたいして諦めることなく一生懸命、全力で生徒達は取り組み頑張りました。芝生の上でやる様々な競技はのびのびして、楽しそうに見えました。中でも前期課程(1から6年生)全員で披露した中里小中学校伝統の「八木節」で児童達が力強く踊る姿に、保護者や観客からは大きな拍手が送られました。開校以来初の単独開催となった今年の中里小中学校体育祭は、児童達、生徒達の努力と各先生方各位のご尽力が一体となり、成功裏に幕を閉じました。



季節感溢れる生花飾りに目を見張りました

陶器から漏れる明かりが幻像的ですね



大津満夫さん光子さんご夫婦の合作。今年も玄関を秋色で飾っていただきました。

毎回出展いただく切り絵 とにかく繊細



文化祭の作品コーナーです。毎回力作が展示され見学者も作品の前で「すごい！どうやってこうなるの?」「凄く時間かかっているね」「私も挑戦してみたい」の声がありました。

中里小中学校 文化祭 澄水祭が行われました

令和6年11月2日(土) 中里小中学校体育館において、「心1つに! なかさ」とつ子 僕らの輝き無限大のテーマで文化祭が行われました。

昨年までは、コロナ禍の影響で家族の入場者の制限もありましたが、本年からは4年ぶりに見学入場制限が解除され、父母のほか、お爺ちゃんお婆ちゃん未就学の兄弟も集まり会場満席の文化祭でした。

冒頭中里学区コミュニティ推進会会長の石川諒一様より、「文化祭は勉強以外の一人一人の目標の成果を確認し、新しい課題に挑戦する良い機会です」と挨拶がありました。

中里小中学校は、一貫校として当初より特徴ある教育として、コミュニケーション科を設定、ことばを大切にテーマで1年生からの英語学習、3年生から落語習得、7年生からは能楽の練習を取り組んでいる。

英語による発表では、世界に日本の魅力を発信する発表、茨城県をより良い県にするためのSDGs取り組みが紹介。青少年派遣事業で広島で体験した「平和の旅」の体験談発表、1・2年生の十二支の始まりの発表と盛り上がりしました。

3・4年生の落語の発表では、「桃太郎」「元犬」を披露。

5・6年生の落語発表では、「ためき」「子ほめ」「酢豆腐」の3目が披露された。今年は、プロの落語家、柳家さん助師匠を招き指導を受けました。



技能オリンピック出場 堀江 翔君結果報告講演

前号(226号)で技能オリンピック出場の堀江翔君を紹介しましたが、今回の澄水祭に際し、後輩たちにフランスでの技能オリンピック大会の結果について帰国報告会がありました。堀江翔君は、6年前に同校を卒業し、日立市の日専校から三菱重工高砂工場に入社し今回日本代表として溶接部門で技能オリンピックに出場され5日間の競技を行い、47人中7位に入賞しました。

彼の報告の中で「頑張ることと目標に向けて努力することは違う」との言葉があり、ただ頑張っても目標を持ち、向かって努力することと意義がある

と話していましたが後輩たちに必ず響いたと思う。



中里地区第97回囲碁・将棋大会実施される

注目を集めたのは小学生・中学生のころから大会に参加する将棋の部で三位に入った菊池倫子(ともこ)さん。現在は将棋部の活動が盛んな高校に在学し既に学校代表として大会に出場する腕前を持ち確かな実力を持つ逸材です。今大会でも大人相手に引けを取らない冷静な指し回しを見せ実力を証明してくれました。菊池さんの今後の成長が期待され将来的には中里の大人では全く歯が立たなくなるかもしれません。これからの活躍に期待します。

~対局風景~

将棋の部2位:与沢さん 優勝:増子さん 3位:菊池さん

囲碁の部2位:藤本さん 優勝:石川(美)さん 3位:清末さん(代理で石川さん) (右側から)



令和5年9月12日の茨城新聞の記事を紹介

中里地区出身の共同通信記者、後藤直明氏が作成し茨城新聞に掲載された記事をご紹介します。共同通信の連載企画「迷い道」にて指定難病を患い失明の恐怖におびえながら旅行した北海道にて乗馬体験を通じ生きる意味を見つけ、失明後に「身体障害者馬とふれ愛倶楽部」を設立した山下泰三さんの人生を紹介した記事です。前半は山下氏が「網膜色素変性症」と診断され将来的に失明の可能性があると告げられ様々な治療法を試すも病気が進行し、仕事や日常生活に支障がでるようになり、気力がなくなり人生について深く悩む過程が描かれ自らを「不必要な存在」と責めるようになります。後半では家族で訪れた北海道で乗馬体験し挑戦する喜び、生きる情熱を取り戻し、失明後も乗馬施設に通い落馬や骨折など大きな怪我をしながら諦めず、翌年設立した団体に参加した障害者にハンディがあっても人生の楽しみは奪われないと伝え多くの障害者に「生きる意味」を伝えたことを紹介しています。紹介した記事全文は、共同通信の公式サイトや岩波書店から発刊された「迷いのない人生なんて」という書籍に載っています。